

失禁に関心をもつ医師がわずか4人だった時代、そして、いま

コンチネンスケアの黎明期に生まれた男の子の物語をシェアします。



コンチネンスケアはすべての人が気持ちよく排泄できるための取り組みです。
このマークは取り組みを皆で支えるシンボルです。

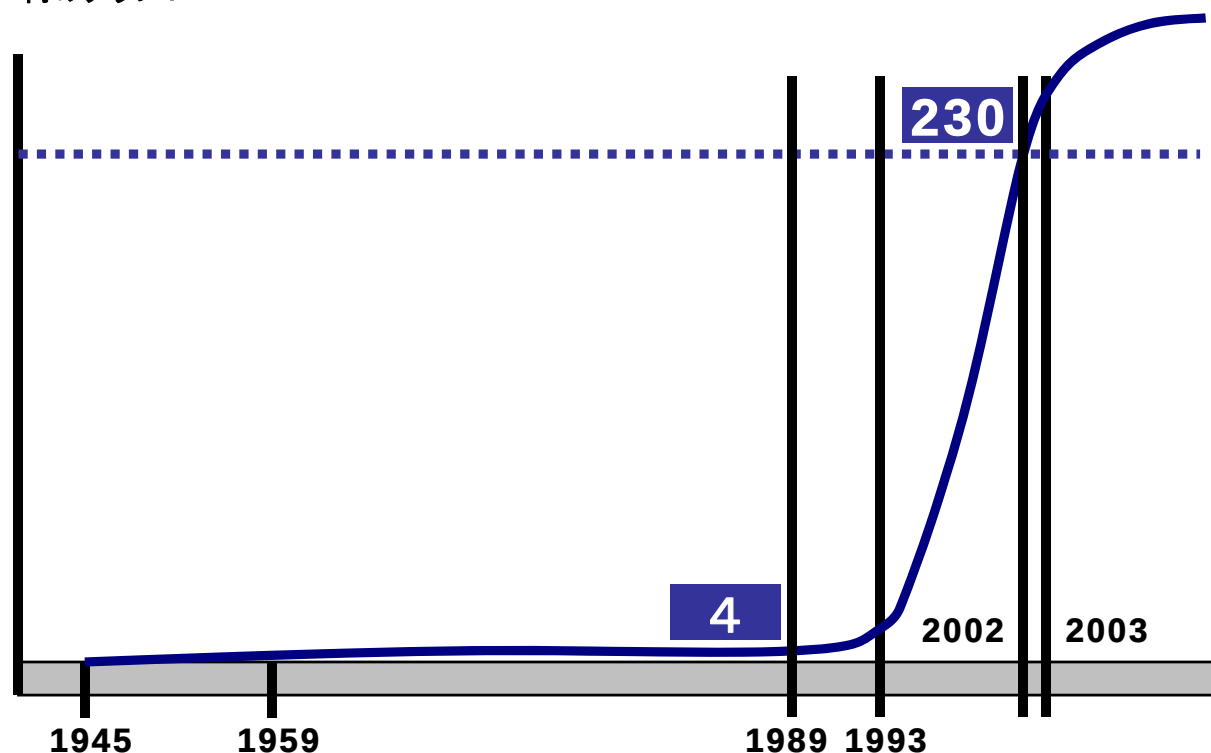
「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research Japan Continence Association

失禁に関心を持つ医師がわずか4人だった時代

何のグラフ？



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

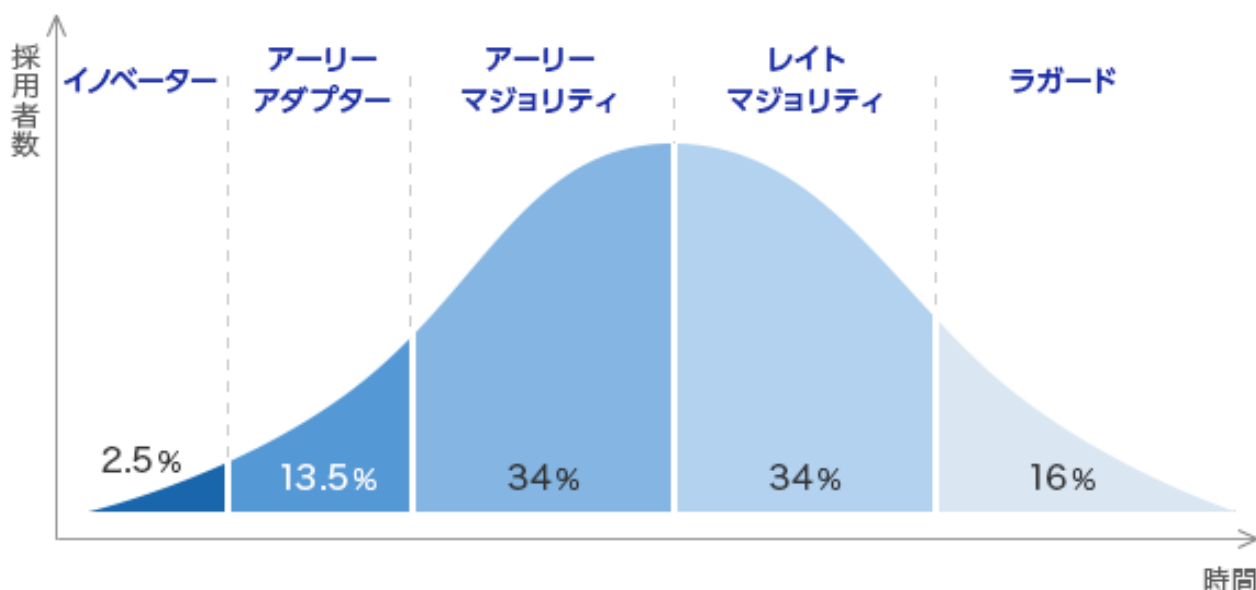
©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research Japan Continence Association

イノベーター理論に当てはめると・・・

イノベーター理論では、普及の過程を5つの層に分類しています。

2019年10月現在の病院数は8,300施設で、一般診療所は10万2,616施設。(厚生労働省 2020年9月29日)イノベーター理論は、スタンフォード大学のエベレット・M・ロジャーズ教授が『イノベーション普及学』という著書の中で 1962年に提唱しました。



おむつの歴史(黎明期)

切っ掛けは1冊の本でした。

年表・紙おむつの歴史

	乳幼児用紙おむつ	大人用紙おむつ
1940年代	スウェーデンで考案される	
1950年頃	紙おむつ誕生	
1962年 (昭和37年)	布おむつの中に敷くライナー発売	クレープ紙を重ねたフラット型誕生
1963年 (昭和38年)	肌に触れる部分に不織布、外側には防水シートを使った紙おむつ発売	
1974年 (昭和49年)		粉碎パルプ100%の製品
1977年 (昭和52年)	テープ型紙おむつ発売	
1983年 (昭和58年)	高分子吸水材採用の紙おむつ発売。吸収性能が向上し、1日の使用枚数7.7から5.5枚に減少	テープ型紙おむつ発売
1984年 (昭和59年)		高分子吸水材採用の紙おむつ発売。1回の排尿を1枚の紙おむつで吸収し、布おむつの性能を凌いだ発売
1990年 (平成2年)	おむつ離れトレーニングパンツ発売	
1991年 (平成3年)	パンツ型紙おむつ発売	
1994年 (平成6年)		パンツ型紙おむつ発売

2012年に米国で出版された本に経験を寄稿しました。

世界中の専門家が完治しない失禁管理について執筆した書籍

「Managing *Life* with Incontinence」 「失禁と生きる」

翻訳版 2021年6月15日 発刊
約280頁 価格 2,200円（税込）

監訳 西村かおる
出版 コンチネンスジャパン（株）

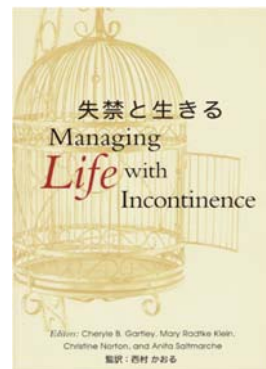


お申込み方法：専用申込みQRコードからお申込みできます。
コンチネンスジャパン（株）のホームページからお申込みできます。

<http://www.continence.co.jp>

お申込後10日以内に書籍代 1冊2200円
+（送料180円/冊）をお振込ください。

© Continence Japan Co., Ltd



世界中の専門
家執筆の各章
と体験談で構
成されていま
す（全11章）

失禁から生き残った男の子1（概要）

切っ掛けは1冊の本でした。

1959年 ・オギヤーと生まれました。

30年間の遠回り

1989年 ・本「失禁はコントロールできる」との出会い。
・アメリカの失禁患者会との出会い。
・日本コンチネンス協会との出会い。

地球1周
4万Kmの
遠回り

アメリカの失禁患者会
設立から
28年遅れ！

2002年 ・日本で初！当事者が出版「失禁コントロールガイド」

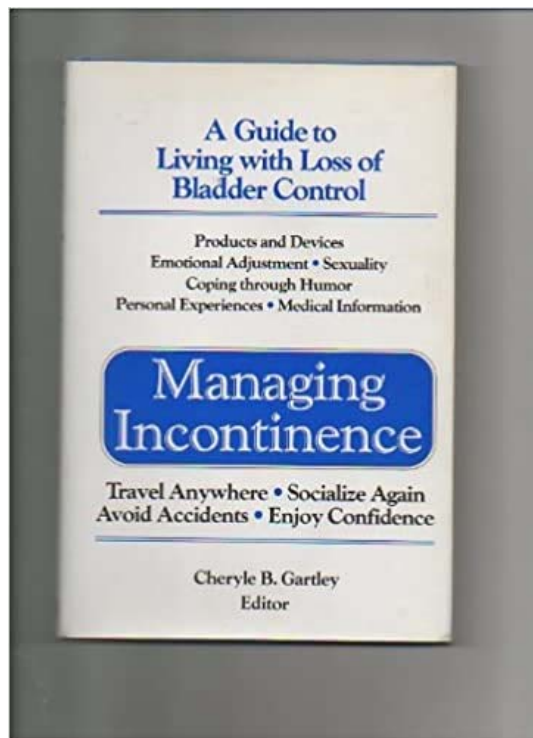
2003年 ・失禁の当事者グループ誕生（日本コンチネンス協会の中に）

尿失禁のコントロール・Managing Incontinence

1990年 尿失禁のコントロール



1985年 Managing Incontinence



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

失禁から生き残った男の子2

プロローグ

- 戦後14年の復興著しい時期で、貧しいながら活気がありました。
力道山が活躍し、東京オリンピックが開催された時代です。
- 物心ついた後も失禁や夜尿に悩まされていました。
- よく転ぶ子で、膝に擦り傷が絶えませんでした。
- 父のマッサージ師で、6畳1間の自宅をカーテンで仕切り仕事をしていました。
家具があるので、実質の生活空間は2畳ほど。
失禁の問題で感じる羞恥心から心を守るために心にもカーテン引きました。
- 熱を出したときの便失禁およびおむつ体験
心の柔らかい部分を守るために作ったカーテンのイメージが強固になった。
- その後31歳になって潜在性二分脊椎症と診断される。
失禁の自己ケアや治療を追い求めて彷徨う。

「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

失禁から生き残った男の子(写真)

1959年東京都新宿区に生まれました。



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

失禁から生き残った男の子 小学校の頃

小学校の頃

- 小学校は、自宅から4停留所先の小学校へ通っていた。
自尿は、ある程度あり漏れはタオルでカバーできる程度。
- 通学中に便失禁をした経験がトラウマ。
自宅まで戻って、着替えをして登校した。
先制に理由を説明することができずモジモジしていた。
先生から怒鳴られて初めて、うんちの漏れを告白した。
教室での出来事だったので、友達に知れたことがショックでした。
- 小さいころから心の中にカーテンを作り自らを守っていた手法が増強された。
漏らしている自分自身から心が離れ客観視できるようなる。
その際に気が抜けたようになっているためにあだ名は、「たましい君」。

「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

失禁から生き残った男の子 中学校の頃

中学校の頃

- 中学校の時に健康診断の尿検査で再診が度々あった。
今にして思えば、神経因性膀胱による尿路感染が原因と思われる。
- 下半身の麻痺が始まった。
30歳頃から車椅子生活となりましたが、下半身麻痺の始まりはこの頃。
- 夜尿が多くなり大人用おむつが必要となる。
- 便秘の解消に苦勞しイチジク浣腸常用となる。
- 虫垂炎を発症したため修学旅行に行けなかったが何故か安心した記憶有り。

失禁から生き残った男の子 高校・大学の頃

高校・大学の頃

- 中学校時代と失禁問題の進展は無かった。
但し、自己ケアと言うか対応が上手になってきたので気持ちは楽だった。
- 一番の悩みは夜尿がおむつから横漏れすること。
悩み解消のために、1984年の高分子吸収体入り紙おむつを待つことになる。

失禁から生き残った男の子 社会人になって

社会人になって

- 失禁は、程度の波があるものの続いていました。
- 社会人になって金銭的余裕が得られ専門医探しに力を注いだ。
- 就職した1982年当時は、失禁専門医に巡りあうことは困難。
- 1990年に「失禁はコントロールできる」との出会い。
渡米して執筆者であるシェリルBガートレイさんから教えを乞う。
イギリス留学から帰国した西村さんと名古屋大学の近藤医師の情報を得る。
- 1990年西村さんの紹介で、東京都リハビリテーション病院の高坂先生を受診
西村さんより間欠自己導尿の指導を受ける。
高坂先生より潜在性二分脊椎症の診断を受ける。
下肢麻痺が進み車椅子操作を東京都リハビリテーション病院にて学ぶ。
- 2012年「失禁と生きる」が出版される。
Managing Life with Incontinenceの日本語版として出版

尿失禁のコントロールガイド&シカゴにて1

2002年 尿失禁のコントロールガイド



シカゴにて2

2002年 尿失禁のコントロールガイド



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

失禁から生き残った男の子 もう一人の自分

もう一人の自分

○ガートレイさん、西村さん他多くの方の支援により自己ケアを確立
「子供は、3歳までに可愛さによって親に恩返しを終える」という考え方。
視点を変えると親から貰った愛や恩は、子供世代に返すべきと言う意味。
貰った恩を返す意味で、日本コンチネンス協会の副会長として活動。
もう一人の自分を救いたいと言う思いも重なる。
大きな視点では、日本が得た恩を必要とする他国へ返すことも大切。

○ガートレイさんの出会いから19年を経て
ガートレイさんの新刊本 **Managing Life with Incontinence** へ寄稿。
19年後 (19yrs later.) は、ハリポッターシリーズ最終巻のタイトル。
宿敵を倒した後の様子が描かれている。
原稿には、このキーワードも入れさせて頂きました。

○職歴

1982年～2001年 TIS(データセンターマネージャー)
2002年～2004年 A&I(データセンター営業企画)
2004年～2006年 JMDC(医療ビックデータ分析会社の立上げに参画)
2007年～2019年 新生銀行(データセンターマネージャー)

「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

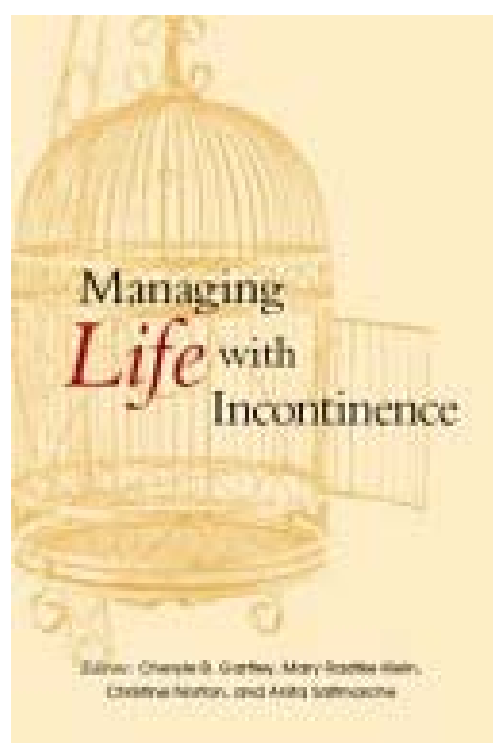
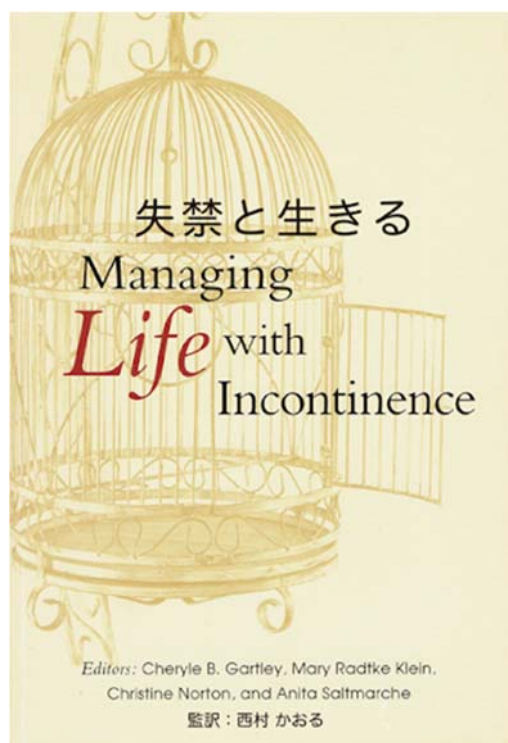
©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

失禁と生きる・Managing Life with Incontinence

2021年 失禁と生きる

2002年 Managing Life with Incontinence



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved. Rese  日本コンチネンス協会

設立33周年！

コンチネンス協会は、33年目。

みんな
で一緒
に



歩
ん
で
来
ま
し
た
。

「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved. Rese  日本コンチネンス協会

どうなってる？失禁ワールド！

失禁は、一部の人の問題？

・人種地域に関係なく、人口の7～8％が失禁の問題を抱えている。

日本の失禁当事者
910万人

失禁当事者は、
実はもう少し多い
(羞恥心の問題)

一生の期間で考える
と失禁は全員の問題
(100％失禁当事者)

・衣食事足りて表面化する場合

戦争、食料不足、
貧困などの解消で
失禁問題は表面化

失禁問題の表面化
は、物質的な豊かさ
のバロメータ。

失禁問題の解決
は、精神的な豊かさ
のバロメータ。

・失禁の原因、症状はいろいろな種類がある。

原因	骨盤底筋の問題	運動能力低下	前立腺肥大	脊髄損傷	脳血管障害
----	---------	--------	-------	------	-------

症状	腹圧性尿失禁	機能性尿失禁	尿閉	夜尿症	神経因性膀胱
----	--------	--------	----	-----	--------

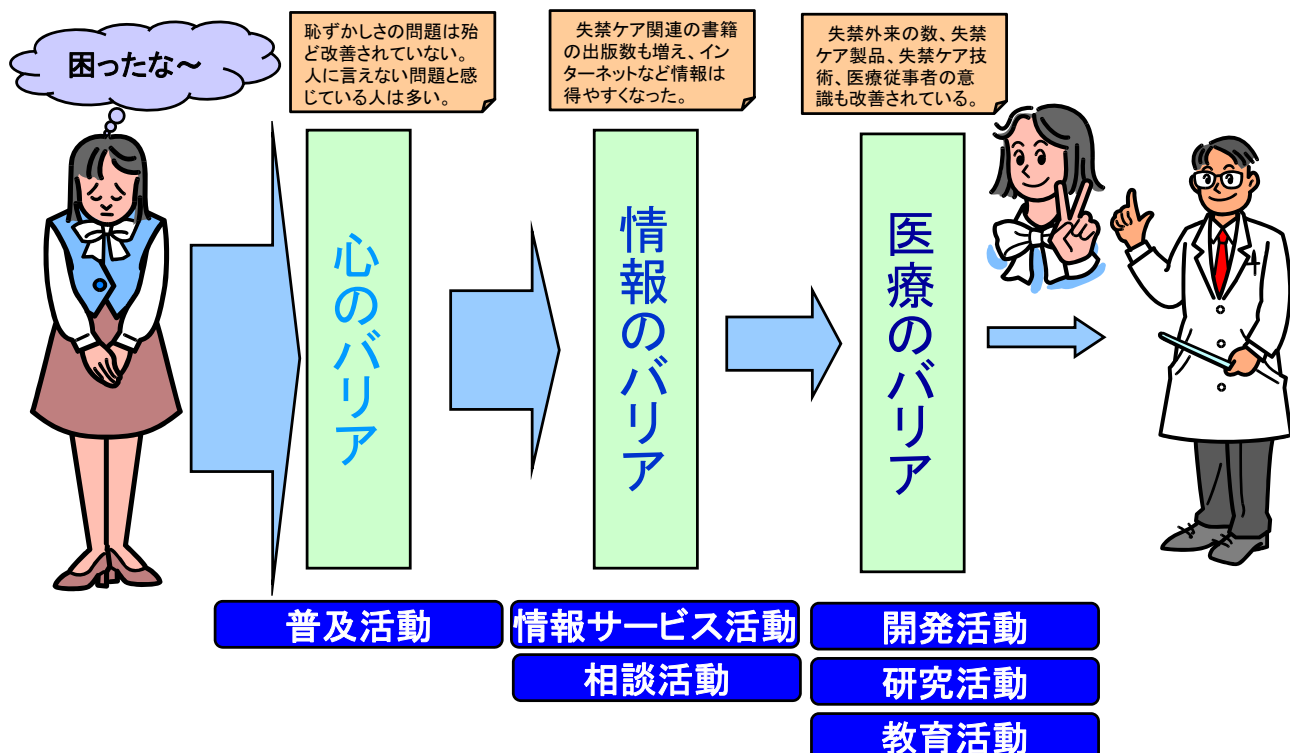
「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research | 日本コンチネンス協会

3つのバリア

医療のバリアと情報のバリアは解決しつつある。残された課題は、心のバリア。



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research | 日本コンチネンス協会

日本コンチネンス協会って何？

日本コンチネンス協会は、「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざしています。

コンチネンスとは？

コンチネンスは、失禁を意味する英語インコンチネンスの反意語で、排泄の自制ができていない状態を表します。具体的には、「溜める機能」と「排泄する機能」が適切に機能している状態のことです。

英和辞典

- Continence ・排泄の自制ができる・節制の・禁欲的
- Incontinence ・失禁の・自制できない・みだらな



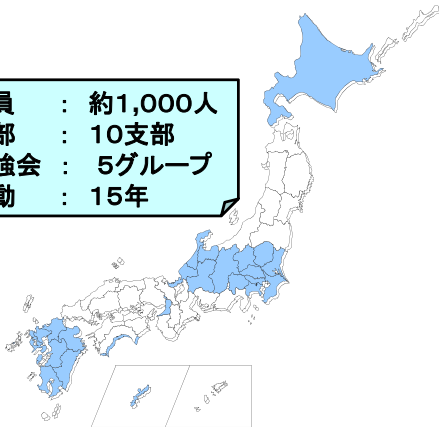
日本コンチネンス協会

日本コンチネンス協会は、「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」を目指す非営利な社会活動を行う団体です。

ポイントは、「全ての人」と言う部分です。失禁の問題を抱える人は、人口の7～8%と言われています。日本の人口を1億3千万人とする900万人以上の方が今現在失禁の問題を抱えています。これだけでも十分に大きな問題ですが、人の一生と言うスパンで考えると排泄のコントロールが出来ない時期は全ての人にあります。

現時点で失禁の問題を抱える方への支援は大切な問題ですが、排泄は全ての人の問題なのです。日本コンチネンス協会が単なる患者会ではなく、社会活動を掲げているのはその為なのです。

会員 : 約1,000人
支部 : 10支部
勉強会 : 5グループ
活動 : 15年



※詳しくは、お手元の会報コンチネンスナウをご覧ください。

「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research | 日本コンチネンス協会

6つの活動

排泄にこびりついた否定的なイメージやタブーを取り除くために活動しています。

普及活動

排泄についての正しい知識の常識化をはかり、広く一般に行き渡らせること

研究活動

排泄に関して未解決な諸問題について調べ、集約、考察し公表すること。

相談活動

排泄に関する悩み、課題を持つ人が、相談することにより解決への方向性を導き出すための支援を行うこと。

開発活動

排泄ケアや排泄に関する研究から得た課題を具現化すること。

教育活動

排泄に関する知識・技術・態度を伝え、望ましい姿に変化できるようにすること。

情報サービス活動

上記稼働を様々なシステムを活用し、会員をはじめ誰にでも分かりやすく、かつ、社会の隅々まで情報を伝達させる活動。



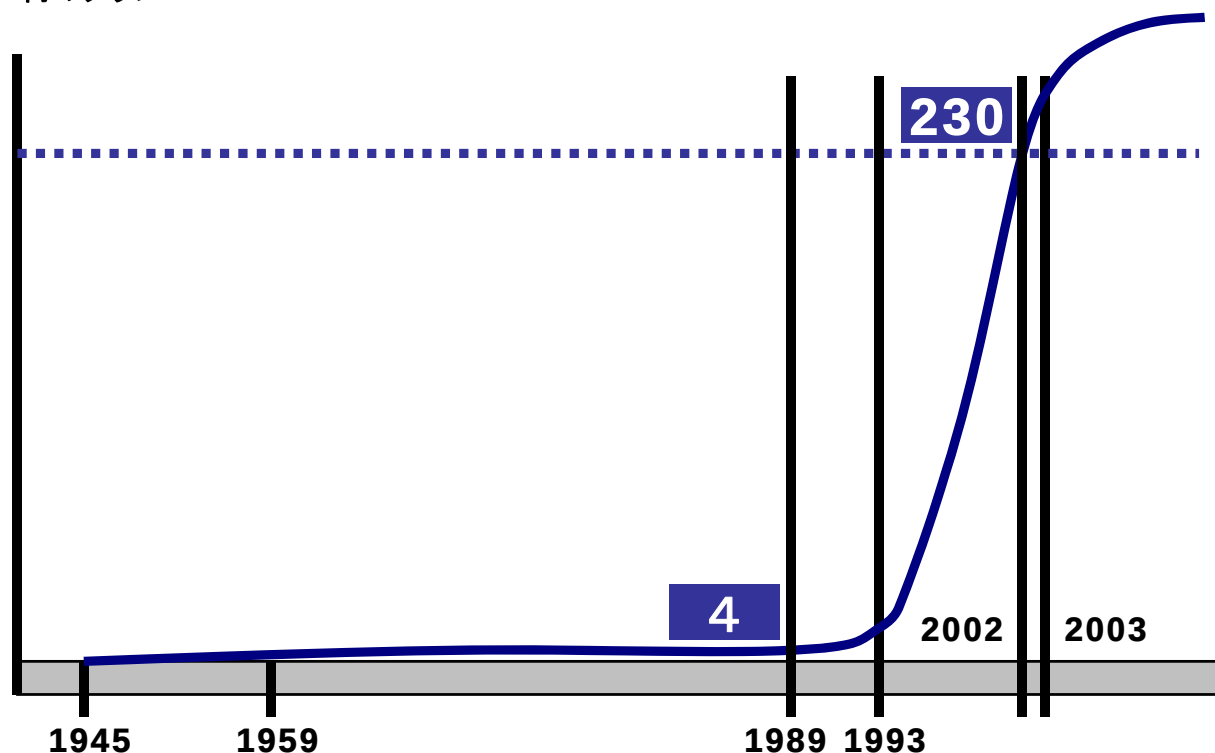
「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research | 日本コンチネンス協会

今までのコンチネンス活動の成果

何のグラフ？



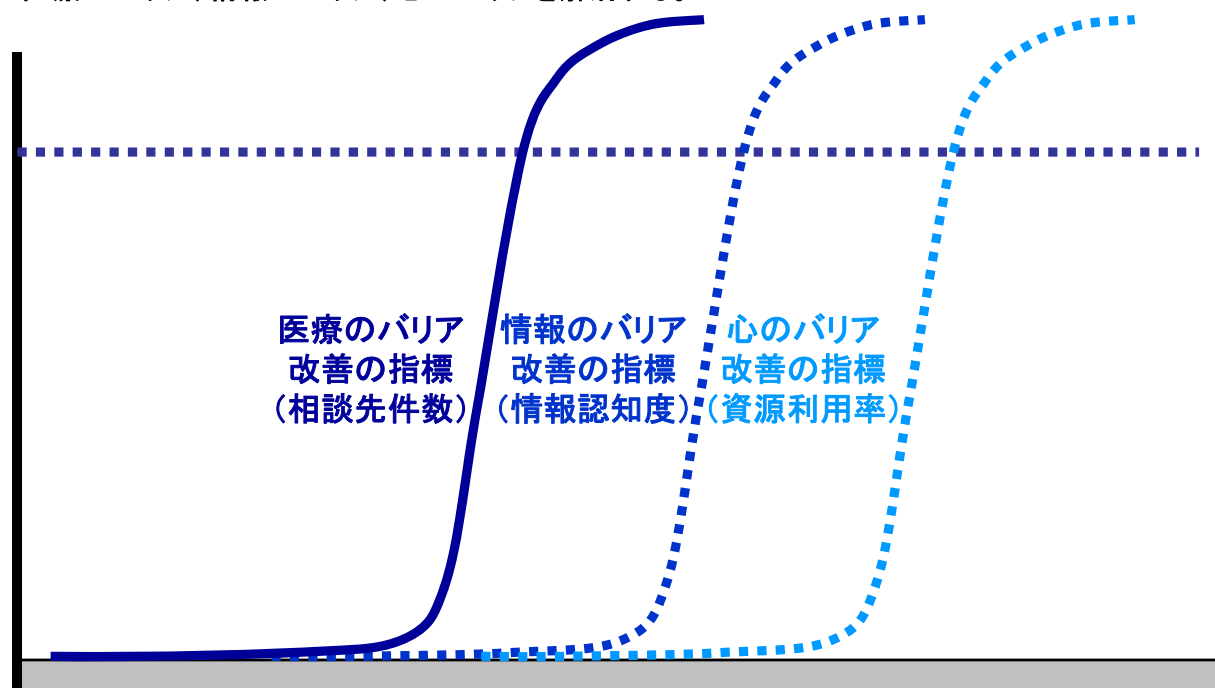
「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research | 日本コンチネンス協会

これからのコンチネンス活動イメージ(指標)

医療のバリア、情報のバリア、心のバリアを解消する。



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights reserved.

Research | 日本コンチネンス協会

排泄問題の課題

排泄問題は、多くの課題を抱えています。

失禁の対応方法は？

- ・どの病院で診てもらったらよいのか？
- ・日常生活における失禁問題の相談先は？

羞恥から相談できない

- ・日本人は、羞恥心が強い。
- ・羞恥心が障壁となって他者に相談ができない。



- ・失禁の原因が多様なため、当事者会やピアカウンセリングの立上げにあたってはグルーピングに配慮が必要。

失禁の症状は多様

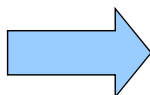
- ・人口の7～8%が失禁の問題を持つと言われている。
- ・一生のスパンで考えると失禁はみんなの問題。

失禁はみんなの問題

解決策(アクション)

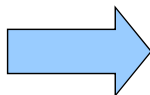
排泄問題は、多くの課題を抱えています。

失禁の対応方法は？



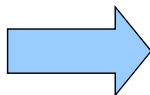
情報を探し易くする

羞恥から相談できない



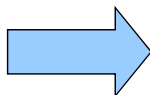
出版・イベント

失禁の症状は多様



症状・別当事者会

失禁はみんなの問題



啓蒙(メディア)

当事者中心への取組み(2)

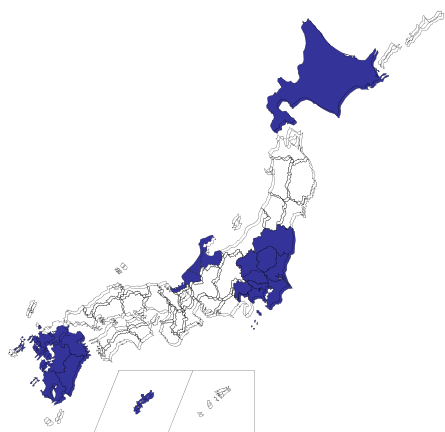
日本初！失禁など排泄の問題を話すメーリングリスト

リーダー：矢澤康行

失禁や排泄の問題のメーリングリスト

<http://www.freeml.com/ctrl/html/MessageListForm/jcas>

失禁の当事者会の立上げプロジェクト



呼びかけを行ったイベント

首都圏(東京)	2002年8月
北陸(金澤)	2002年10月
沖縄	2002年11月
福島	2003年8月
北海道(札幌)	2003年11月
九州(福岡)	2003年11月

「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

当事者中心への取組み(1)

日本初！失禁当事者が書いた失禁コントロールガイド

出版社名：保健同人社
書籍名：体験者が語る失禁コントロールガイド 一人で悩んでいるあなたへの解決のヒント
著者名：日本コンチネンス協会
出版年月：2002年6月
ページ数・版型：135P 21cm
ISBNコード：4-8327-0259-9
価格：1,350円(税別)



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

情報源のご照会

ここを見れば情報があります！

■ホームページはこちら！
<http://www.jcas.or.jp>

■電話相談窓口
TEL 03-3301-0725
受付：月～金（祝祭日を除く）
午前10時～午後4時

■ファックス相談窓口
FAX 0761-23-7307

■排泄ケア（当事者向け）
女性の頻尿・尿失禁
老人の頻尿・尿失禁

■排泄ケア（ケア者向け）
失禁電話相談マニュアル
排泄ケア事例集
排泄ケア教育キット



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

JMDC(4483)

医療ビッグデータ分析を行う会社（現在マザーズ上場）

○JMDCは、医療分野において、社会課題として取りざたされている「医療費の増大（2025年問題）」「医療の地域格差」「生活習慣病の増大」「労働力不足」といった問題に取り組んでいます。

○医療ビッグデータ

保険者支援の中で健康保険組合より二次利用許諾を得て受領したレセプトデータ及び健診データの匿名加工データから、600万人規模の医療ビッグデータを構築し、製薬企業、研究機関、生損保企業等に提供しております。また、今後ヘルスデータプラットフォームサービスの中で取得する健康情報等、他のデータについても、適切な手続きを経て、医療ビッグデータとして活用していきます。



「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | 日本コンチネンス協会

20周年に向けてGO！

次は20周年！成人式に向けてGO！

みんなで
一緒に



楽しみましょ。う。

「全ての人が気持ちよく排泄のできる社会」をめざす日本コンチネンス協会

©Copyright Japan Continence Action Society, 2006. All rights

Reserved | Rese  日本コンチネンス協会